

第1回 官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会

日時：令和4年10月24日（月）13:00～14:30

場所：中央合同庁舎第2号館13階

国土交通省大臣官房官庁営繕部会議室・入札室

【議事】

1. 官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会について
2. 検討会の進め方について
3. 官庁営繕事業におけるEIR作成の手引き（仮称）について
4. 官庁営繕事業の積算分野におけるBIMの活用について
5. 今後の検討の流れ

【資料】

- 資料1 官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会 設置規約（案）
- 資料2 検討会の進め方について
- 資料3 官庁営繕事業におけるEIR作成の手引き（仮称）について
- 資料4 官庁営繕事業の積算分野におけるBIMの活用について
- 資料5 今後の検討の流れ

【参加者（敬称略）】

- 委員 蟹澤 宏剛 芝浦工業大学建築学部建築学科 教授
安野 芳彦 公益社団法人 日本建築士会連合会
竹馬 章二 一般社団法人 日本設備設計事務所協会連合会
曾根 巨充 一般社団法人 日本建設業連合会
脇田 明幸 一般社団法人 全国建設業協会
三村 陽一 一般社団法人 日本電設工業協会
古島 実 一般社団法人 日本空調衛生工事業協会
谷藤 正樹 公益社団法人 日本建築積算協会
清水 達広 一般社団法人 日本建築積算事務所協会

○オブザーバー

- 繁戸 和幸 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
岡本 尚俊 公益社団法人 日本建築家協会

○行政側出席者

- 植木 暁司 国土交通省大臣官房官庁営繕部 整備課長
村上 幸司 国土交通省大臣官房官庁営繕部 設備・環境課長
小澤 剛 国土交通省大臣官房官庁営繕部 計画課 営繕積算企画調整室長
滝本 悦郎 国土交通省大臣官房官庁営繕部 整備課 施設評価室長

【議事概要】 ○委員、オブザーバー ●行政側、事務局

議事 1. 官庁営繕事業における一貫した BIM 活用に関する検討会について

- 事務局より、資料 1 について説明。
- 資料 1 について了承。蟹澤委員を座長に選出。

議事 2. 検討会の進め方について

- 事務局より、資料 2 について説明。

議事 3. 官庁営繕事業における EIR 作成の手引き（仮称）について

- 事務局より、資料 3 について説明。

- 工事の発注手続き時に、BIM データのキャプチャ画像を参考資料として提示しているが、有用であるか。
- 参考資料として有用と思われる。施工者が見たいカット場面を多くし、質疑回答で考え方を確認できるようになると非常に有効になる可能性がある。
- 設備の屋上配置が分かると性能評価に有効である。さらに、IFC 形式などによる実データがあると、各種計算や揚重計画の検討に活用できる。
- 将来的には、業者毎に異なる CAD で作成されたデータを、発注者側が IFC 形式で取り込んで確認できるビューワーソフトを開発されるとよい。
- 中長期的な課題もあるが、ご意見を踏まえ引き続き検討する。

- 維持管理段階での BIM 活用について、今回は EIR の検討範囲に含めないとしても、今後検討する意は示した方がよい。
- ご意見を踏まえ検討する。

- 設計業務の成果品である BIM データを施工者に貸与することについて、課題はあるか。
- 設計から施工への BIM データの引継を BIM 活用の前提としつつ、公開してよい範囲を規定すべき。
- 必要以上のデータを入れ過ぎないために、設計・施工に必要なデータについてのベンチマークがあるとよい。
- BIM データと図面との整合が取れているかどうかは 1 つのポイントになる。設計者から施

工者に BIM データのどこまでの情報が正しいのか示されれば、活用の判断ができる。

○ガイドラインで施工者に示すことになっている入力ルールや確定度等の内容を、営繕の試行を通じて精査していく必要があるのではないか。

●試行事案のフォローアップを踏まえ検討する。

議事 4. 官庁営繕事業の積算分野における BIM の活用について

●事務局より、資料 4 について説明。

○検討の対象は、実施設計後の積算でよろしいか。BIM モデルに積算に必要となるデータがすべて入力されている訳ではないので、これまでの経験則やデータベースのようなものも活用し、積算に必要となるデータを補完する方法についても検討した方がよい。

●検討の対象は、予定価格の基となる数量の作成に係る積算を考えている。現時点で、BIM モデルに積算に必要となるデータをすべて付与することは現実的ではないので、設計 BIM モデルのうち積算に使える情報を利用しつつ、不足情報は積算担当者が追加することで進めていきたいと考えている。検討に当たっては、ご意見を踏まえて進めていく。

○BIM 連携積算の試行について、積算事務所は BIM 連携している者がごく少数であることに留意し、まずは比較的取り組みやすい構造積算から導入し、段階的に他の工種に拡大を図る方向で検討していただきたい。

●BIM 連携積算の課題の検証のため、試行としては意匠、構造ともに項目は用意しておきたい。一方、ご意見は重要な観点であることから、今後の試行実施に当たり配慮等できないか検討する。

○躯体情報は積算ソフトの連携精度が高く、BIM 以外の構造計算連動も可能である。試行対象はシンプルで中規模の RC 造がよい。

○積算基準と BIM モデルからの数量算出で異なる箇所をクリアにしていくことは重要。今後は積算基準を変える議論にも踏み込んで欲しい。

●積算基準と BIM モデルからの数量算出が異なる部分について、整理する。

議事 5. 今後の検討の流れ

●事務局より、資料 5 について説明。

(以上)